

「アカトンボ観察会」（令和元年10月20日開催）

- ・講師 保崎 有香さん
- ・参加者 本日は「おけがや自然塾」の行事と兼ねて開催したため、自然塾の子どもたちとその保護者も加わり、一般参加者と合わせて69人の参加がありました。

1 事前説明

野外観察の前に講師からアカトンボについて説明がありました。一般的にアカトンボと呼ばれるトンボはアカネ属のトンボで、体の色が赤くてもショウジョウトンボ、ハッチョウトンボ、ベニイトトンボやウスバキトンボなどはアカトンボの仲間ではありません。また体の色が青くてもナニワトンボはアカネ属のトンボです。アカネ属のトンボは約20種いますが、このうち桶ヶ谷沼では12種が確認されています。アカトンボの種類は翅（はね）や胸の模様の形などで見分けます。代表的なアカトンボであるアキアカネとナツアカネの見分け方は胸の模様の先がとがっているものがアキアカネで、先が角ばり途中で切れているものがナツアカネです。アカトンボの数は年々減ってきていますが、ノシメトンボは東京などで増えています。

2 野外観察

事前説明後、野外観察を始めました。各自捕虫網（ほちゅうあみ）や木道の竿（さお）の先のアカトンボを見るために双眼鏡（そうがんきょう）を持って行きましたが、木道ではアカトンボは確認できませんでした。木道の西側の観察路へ行くとマユタテアカネが確認されました。甕塚（こしきづか）へ行くと、アキアカネやヒメアカネが見られました。採集したアキアカネは腹部を押してコップの水の中へ産卵させて、その様子や卵をみんなで観察しました。

3 まとめ

ビジターセンターへ戻り、本日の観察会で見つけたアカトンボの名前、見つけた場所、何をしていたか（交尾、産卵、縄張（なわばり）をパトロールなど）を書き出してアカトンボマップを作成しました。最後に講師から本日確認したアカトンボトンボの写真を見ながら生態（せいたい）や形の特徴（とくちょう）などについて説明がありました。



事前説明



野外観察風景



野外観察風景



卵を取り出す



アカトンボマップ作成中



アカトンボマップ

